

【記録】令和6年度 第2回徳島県立池田支援学校学校運営協議会

1 日 時

令和6年10月24日（木） 9：40～11：30

2 場 所

徳島県立池田支援学校美馬分校 2階ビルメンテナンス室

3 日程及び会次第

9：10～ 9：40	受付
9：40～10：10	授業見学
10：10～10：20	休憩
10：20～11：30	学校運営協議会
	(1)開会
	(2)会長挨拶
	(3)学校長挨拶
	(4)協議
	・地域貢献活動、啓発活動について〔各部会にて〕
	(5)報告
	・校則（服装規定）の見直しについて（本校）
	(6)第3学校運営協議会について
	(7)閉会

4 協議における委員からの意見・感想

■地域貢献活動、啓発活動についての説明

事務局

- 県では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、令和5年度から令和8年度までの4年間において教育、学術、及びスポーツの振興に関する総合的な方針を示す「徳島教育大綱」、その行動計画である「徳島県教育振興計画 第4期」を作成し、推進しているところ。
- 本中の重点項目Ⅴに「地域・家庭・学校が連携し、協働する教育の推進」とあり、地域との連携や人をつないで地域づくりを推進していくことが示されている。
- 池田支援学校においても、グランドデザインや学校評価の目標の一つに「家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり」を設定し、本校・分校ともに取り組んでいるところ。
- この後、本校・分校に分かれて、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えている。地域連携、地域貢献、地域啓発ということも整理して示させていただいている。忌憚の無いご意見をお願いしたい。

■地域連携活動部会 [本校]

事務局

(配付資料の説明)

- 小学部の段階では、作品展示や箸蔵小学校との交流及び共同学習など地域啓発が主となっており、中学部の段階になると、地域啓発に加えて、地域貢献として箸蔵寺のお接待や「箸蔵とことん」から委託された作業を行っている。高等部段階では、「とくしま特別支援学校技能検定」で身につけた技能を発揮したり、作業学習で製作したもの等をいろいろなところで配付したりするような地域貢献活動を行っているところ。
- 整理した表を元に学校で協議をした結果、農福連携を考えていたらよいという話になった。学校の近隣施設「箸蔵山荘」から、今年度、畑をお借りして、さつまいもを育て、収穫をする体験をした。さつまいもを使って、何かできないかという意見が出た。
- 地域貢献等を考えていくにあたっては、地域柄、公共交通機関が利用しにくいいため、タクシーやマイクロバスを借りる必要がある、予算面での課題がある。持続可能で継続的に行うためには、学校に来ていただくか、歩いていける距離で活動ができればありがたい。
- また、防災に関して、震度6弱の地震等、何かがあったときには周辺施設や地域住民の方々と連携協力というところを考えている。
- これらの点についてご意見いただきたい。

事務局

- 学校で接客の学習をしており、その成果を活かしてコーヒーの販売等を行っているところ。接客の技能を発揮できる場所があればと考えている。
- また、ビルメンテナンス（清掃技能）についても活かしていける施設（場所）を提供していただくことは可能か。

委員

- 「箸蔵とことん」の食堂を使うことは可能。接客の内容については現場で担当者と詰めてもらえれば。
- 現在、「箸蔵とことん」ではコーヒーの販売を）お客さんにしてもらってセルフ方式に変えた。お客さんの中には年配の方がいたり、機械操作が若干不安な方がいたりするので、そこについてもらったり、運んだりする部分はあると思う。
- また、基本すべてセルフでやってもらっているが、若干やっぱり高齢の方や不自由な方もいるので、そこについていただくという接客もあると思う。色々できることはあると思う。

事務局

- 現場の担当者と学校の担当者として、まず連携の形について詰めていくということを進めていく。
- 作業学習で作ったもの等の販売や展示についても、スペースを借りることは可能か。
- 学習発表会等のバザーで販売をしているが機会が限られている。商品が売れる経験は、モチベーションも上がるし、子どもたちが学習していることの地域啓発にもつながると考えている。

- 委員 ○スペースを貸すことは可能。「箬蔵とことん」には) 交流室があり、現在絵画教室の展示をしている。定期的に入れ替えていくので、特別支援学校の子どもたちの活動についての展示をしながら販売も一緒にしたらよりわかりやすいと思う。
- 事務局 ○ビルメンテナンスの清掃技能を発揮、貢献できる場所などはあるか。
- 委員 ○施設の廊下などしてもらいたいところもたくさんあると思う。持ち帰って協議する。
- 委員 ○(資料の)「麵処はくあい接客体験」はグレーでお願いしたい。今年の12月で終了。その代わりとして、「箬蔵とことん」を使ってもらいたい。
- 事務局 ○PTA活動において、保護者向けの研修会やイベントの開催を企画していると聞いている。障がいに対する理解や支援の仕方や進路についての研修講師など学校の職員で協力できることがあればしていきたい。
- 委員 ○なかなか特別支援学校の子どもと関わることがないので、(地域連携や貢献では)話できることがないが、資料の中で、「法市地区への農業貢献」といった三好素人農業研究会(以下、素人会)の活動に高等部の生徒が一緒に参加した話は興味を持っている。活動している蕎麦畑は家の近くにあるので、生徒が活動している様子を聞くと嬉しい。
- 農福連携や畑で作業することはよいと思うが、問題は交通手段が限られていることだと思う。
- 事務局 ○例えば、他の特別支援学校であれば周りに野菜畑があり廃棄されるものが出るので、廃棄する野菜をもらい、児童生徒が新しい商品を教員と一緒に考えているということも聞いている。
- 県西は“そば”という話も出たが、そのような青果物はあるか。
- 委員 ○この地域では「あたごがき」を出荷してるところが多い。今は時期なので、出荷の手伝いなどをできる可能性がある。
- 素人会は農業関係についての相談先としてはよいと思うので当たってみるのも方法。
- 事務局 ○承知した。
- 青果物を子どもが一から植えて育てるとなると難しい。種々の理由で廃棄するものがあると、消費者教育とかエシカルということも併せて、新たな商品開発や作業学習の作業種を増やすことが可能性としてある。
- 物によっては学校でできる、できないがあると思うので、検討は必要。情報をいただきたい。
- 本年度、学校でサツマイモの収穫をしたが、干し芋作りとか。

- 委員 ○干し芋を作ることは難しくないが、お芋を保管する技術の方が大事。気温の管理もある。現在、周辺施設において試行錯誤しているところ。
○教えることができる山の人を紹介することはできると思う。
○うまくできれば販売も考えていけるのでは。
- 委員 ○周辺の施設で取り組んでいる作業において木の端材が出る。
○割り箸を作る際に出る板の端切れ（厚みが5 cm以内の木材）や不良品の箸などについて、活用ができないか。
- 事務局 ○木工室もあるので、検討する。
- 事務局 ○進路では、随時、新規職場開拓をやっている。
○先日ある診療所の話をした。規模的に大きくも小さくもなく、入院患者を受け入れている地域の病院。従業員の数からするとあの障がい者雇用率は関係ないが、地域貢献として障がい者雇用を考えていきたいとのこと。
○仕事としては清掃、厨房業務。このようなケースは稀だが、本ケースのような雇用が進んでいくと生徒たちの働く場所が増えてくるのかなと思っている。
○知り合いや関係者に、障がい者雇用が他の地域では進んでいる気配があることをお伝えしてもらえたら。実習を前向きに検討されるとなれば、説明させていただく。
○また、ある学校の進路において、農業関係の事業を個人で始めた方が、人手が必要であるということから、生徒の雇用に結びついたケースがある。保護者の知り合いを通じて、実習、就職とつながったケース。これには人のネットワークが必要で、実際にハローワークの求人票に載らず、人伝えに行くと新規開拓、障がい者の理解、就労と、Win-Win関係で就職まで持っていけるケースである。農業等で力を発揮できる（就労できる）生徒がいるので、そのような情報もいただけたらありがたいと思っている。
- 事務局 ○学校からの進路としては、一般就職、福祉就労があり、就労時間は6時間や4～5時間もあるが、生徒によっては週3日、1日3時間ぐらいの労働がよい生徒がいる。
○精神的に支援が必要な生徒も増えており、短い時間の仕事で長い期間の雇用してもらえるところがあればありがたい。生徒と仕事のマッチングが定着の面からも大事である。マッチングを考えていく上でも選択肢が多い方がよいので、情報提供をお願いしたい。
- 事務局 ○（別の問題として）現在、学校の敷地内に使用済みの土を置いている場所がある。野菜等の栽培で使用する度に購入し捨て場所に困っている。
○少し前は再利用できるようコーナーを作っていたが、仕切りの木が朽ちてからは、あまり活用されなくなっている。

- 委員 ○リサイクルしたらよいのではないか。夏場に透明なビニールを1週間程度かぶせておけば熱処理でき、それに微生物が発生するような腐葉土などを混ぜておけば十分再利用可能。
- 委員 ○土には色々な菌が混ざっているの、熱処理してから、再利用することが必要。
- 事務局 ○周辺施設でも毎回土を購入して利用している。再利用できるようになれば土を購入したい。
- 委員 ○物を作るのにはノウハウが必要。PTAの方の中で、得意な方がいてお手伝いいただけるのであればありがたい。
- 委員 ○土再生プロジェクトのようなテーマで学習を考えることもできる。課題解決学習になる。
- 委員 ○微生物についてや秋は山に枯れ葉を取りに行くなど、一連の学習の中で学ぶことができるよい機会。

■支援学校「みまカフェ」部会〔分校〕

- 事務局 (美馬分校の地域貢献活動について資料をもちいて説明)
- ・園芸【花や野菜の配布】
 - ・お接待【製作物の配布、掃除、安全祈願】年間2回
 - ・「みまの日」【清掃活動】年間2回
 - ・「支援学校みまカフェ」【憩いの場所作り】第1～4週の木曜日
 - ・地域の方々と一緒に防災学習【安心・安全な町作り】年間2回
- それぞれの活動内容や年間の回数、そしていつから取り組むようになり、どのように変化をしてきたのか、これからの地域貢献活動に関する助言をいただく上で参考にしていただけるよう美馬分校事務局より説明を行った。
- また、生徒や教員を対象としたアンケートの集計結果を見ていただきながら、手応えを感じているもの、回数や取り組み方に工夫が必要であるもの、新しいアイデアなど、学校からの視点でこの取り組みについて感じていることを伝えた。
- 委員 (7月に花を植えたプランターや野菜を届け、利用者の方と交流したことについて)
- 家族に会うのにも制限がかかっていたコロナ禍で、できていなかった久しぶりの交流ができ、利用者の方が喜ばれていた。
 - 生徒が野菜を配っている場面で「今野菜高いのに無料でいただいているの？」と喜ばれていたり、施設で生活している方は季節を感じる機会が少ない中でプランターの花を見て「これは夏の花やなあ。」と季節を感じられている場面を目にしたり、花や野菜を使った交流はいい取り組みとなっている。

- この交流に加えて、ぜひ施設の見学をして、介護施設の仕事について知ってもらおう機会になってほしい。
 - 先ほど職業の授業を見学した中に、職場や職種を書き出して仲間分けをしているグループがあったが、「ケアプラザ美馬」や介護施設がなかった。ローソンやマルナカのような普段使うような店については、どんなところかイメージを持ちやすいが、介護施設は漠然としていてどんな仕事をしているのか、事業説明会のような機会でもない仕事内容を知ってもらおう機会がない。
 - カフェについては、以前利用者と職員と利用したが、外出は今のところ制限がないので近くにあるのがありがたい。ただ、11:30~14:00なので、ちょうど昼食時間と被り、外出のタイミングが難しい。
 - カフェで生徒の様子が見えることは、職員に特別支援学校の生徒のことを知ってもらおう機会になり、仕事についてときに説明しやすくなる。
(自転車を通う18年目の本校卒業生のエピソード)
(調理の仕事をしている美馬分校の卒業生のエピソード)
 - 特別支援学校の卒業生は、基本的なことは身につけてできている。課題は少ないが、定期的に軌道修正はしている。今している仕事に追加するとき、内容を変えたいとき、相談支援員の方に入ってもらおうが難しい印象がある。
- 委員 ○親としてはいろいろさせてほしいというのもあるが、親でも伝え方がわからないときがある。無理させてもダメ、でも上達してほしい。
- 事務局 ○伝え方やそのタイミング、こんな時はどう対応すればいいかなど支援のポイントを整理しまとめておき、卒業時にうまく引き継げるよう努めたい。
- 委員 ○「あさがおの会」の紹介や美馬分校との関係（「あさがおの会」のイメージキャラクターを依頼したときのエピソード、また「あさがおの会」のメンバーで6月にカフェを利用したときのエピソード）の話。
- 生徒のみなさんや先生方の温かい対応に感謝している。ぜひ次は「あさがおの会」にちなんで、あさがおの苗を育てる活動を依頼したい。
(観光列車の応援活動をしている貞光駅のエピソード)
- 観光列車は、これまでは穴吹駅が停留所になっていた。清掃活動のおかげできれいになったからか、最近はトイレ休憩など貞光駅が停留所として活用されている。
- 委員 ○委員の方のお話を伺って、意義のある活動ができていることがわかった。このお話しを生徒に返すことで意欲につながるだろう。
- 委員 ○お接待は、どうして熊谷寺でしているのか。近くにも大きなお寺があるが。
- 事務局 ○八十八カ所の札所で行っている。常に訪れる人は多く、人と関わりやすい。
- 委員 ○確かに、お遍路さんには外国の方もいるし、大勢人が集まっている。

事務局

- 野菜を配る場所を考えているとき、生徒の方から人が集まるところがいいと意見が出てきて、阿波銀行で配るようになった。少しでも多くの人に喜んでもらえるようにと生徒も考えているようだ。

■本・分校への助言

委員

- 1点目、学校における困り事や問題は、児童生徒のプロジェクト学習の教材になりうる。学校の問題については、子どもだけではできない、学校だけでもできない、専門知識が必要だとなったときに、専門家と一緒に解決すると、教科の学習にもつながる。
- 子どもがチームを作って大人と一緒に学べるというプロジェクト（課題解決学習の機会）を作ることができると、色々なことを学ぶことができ、ワクワクする。地域の問題や学校の問題は、ことごとくプロジェクト学習にすることができると、とても楽しいものであり、教科の問題とか就労に向けての力になるという発想があってもいいと思う。
- 2点目、子どもが学校から遠くに行くのが難しい、公共交通機関もなくなってきている、近くでやれることをという話があった。ただ、校外に学習の機会があるのに行けないので諦めるはもったいない。
- 予算や条件整備について、学校運営協議会で協議して合意ができれば、教育委員会に条件整備の要求を意見として提出することが、学校運営協議会の権限上できる。教育委員会は意見を尊重することになっており、学校だけが要求するよりもやや効果がある可能性が高い。
- 遠くに出て行く手段は、タクシーやバスを使う以外で考えると子どもたちがプロジェクトチームを作って、クラウドファンディングをすることもできるかもしれない。
- いろいろな手段が考えられるので、本会が課題を解決できるお手伝いができる場になれば。